

## 【結果概要】準天頂衛星サブ WG (案)

○(株)日立製作所より、資料1に沿って、豪州におけるみちびきを使った技術実証の状況について説明。準天頂システムによる効果として人件費、運用管理等のコスト軽減が期待できる点、初期収束時間の短縮、アンテナ/受信機の小型化、商品化等が課題である点について報告がされた。質疑応答では、測位信号を活用したオートステアリングを導入する際の電子基準点の整備について質問があり、各農家が自前で基準点を設置して運用をしていることが紹介された。

○豊田通商(株)より、資料2に沿って、タイにおけるみちびきを使った新サービス実証の結果について説明。高精度位置情報を活用して車線毎の渋滞情報を生成し高精度ルートガイダンスを行うことで、現行システムと比較して目的地への到達時間が早くなる傾向が確認できた点、初期収束時間の短縮、受信機の小型化/低コスト化などが課題である点が報告された。質疑応答では、車線毎の渋滞情報を生成する際に必要となる受信端末の台数について質問があり、今回の実証では予算等の制約から台数が限られていたが、台数が増えれば精度が高くなる見込みであるとの回答があった。

○内閣府宇宙開発戦略推進事務局より、資料3に沿って、みちびき高精度測位補強サービスの今後のスケジュールと対応受信機の開発動向について説明。

○グローバル測位サービス(株)より、資料4に沿って、高精度測位補強サービスのグローバル展開に向けた、国内外の高精度測位の利用事例と同社のサービス概要について説明。その後、出席委員を交えた全体討議が行われた。

### ○全体討議

GPAS社から、初期収束時間の短縮については、短期的にはMADCOCAの補正情報にローカル補正情報を更に加えることで収束時間を短縮する方法について検討を進めていること、並行して、ローカル補正情報無しでもできる方法を有識者を集めた専門家チームで検討を進めているとの報告があった。

出席委員からは、受信機の開発状況、初期収束時間の課題に対する検討状況などを踏まえて、情報、道路交通、測量、農業などの各業界での利用の可能性や利用にあたって考慮すべき事項についての議論が行われた。

最後に、座長から、これまでの議論をベースとして各組織でみちびき利用の可能性や要望についての検討依頼が出席委員に対して行われた。

(以上)